

株主の皆様へ

2019.04.01～2019.09.30

第121期 中間報告書



CBH社ラスブ鉱山

証券コード:5707

 東邦亜鉛株式会社

株主の皆様には、平素よりご高配を賜り厚く御礼申しあげます。

この度、過去に出荷した当社非鉄スラグ製品の一部に土壌環境基準を超過した製品があった問題につきましては、株主の皆様や地域住民の皆様をはじめとする多くの皆様にご迷惑とご心配をおかけしており、心より深くお詫び申しあげます。

さて、当社グループの第121期上半期（2019年4月1日から2019年9月30日まで）につきまして、事業の概況並びに決算状況をここに報告申しあげます。

当社グループを取り巻く事業環境は、以下のとおりとなりました。

金属相場、特に当社の主力製品である亜鉛の相場は、米中貿易摩擦の長期化や鉱石需給の緩和などから5月以降急速に下落し、9月にやや値を戻したものの、期を通じては下落基調となりました。また、前年同期が相場高だったこともあり、期中平均では前年同期比で下落となりました。鉛は期初から下落傾向が続き、その後は海外主要鉛製錬所の操業停止等により持ち直したものの、期中平均では前年同期比で下落となりました。銀については、米国の利下げなどを背景に第2四半期

以降は上昇基調となり、期中平均では前年同期比で若干の上昇となりました。

一方為替相場は、円/米ドル相場が米国の利下げ観測の影響などにより円高（円高は製錬事業の業績にマイナスの影響）に向かい、期中平均でも前年同期比で若干の円高となりました。豪州に鉱山会社（CBH Resources Ltd.）を有する当社グループに影響を与える米ドル/豪ドル相場については、期（2019年1月から6月まで）を通じて概ね豪ドル安（豪ドル安は資源事業の業績にプラスの影響）に推移し、期中平均でも前年同期比で豪ドル安となりました。

買鉱条件につきましては、亜鉛は前期に比して大幅に改善しましたが、鉛については引き続き製錬事業者には厳しいものとなっております。

当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績は、金属相場の下落や亜鉛の減販によって製錬事業で減収となったことに加え、資源事業においても、エンデバー鉱山の減産の影響などから減収となり、連結売上高は前年同期比で減収となりました。

損益面では、非鉄スラグ製品の処理費用の計上などもあり製錬事業で20億円、主に市況の影響

(連結累計)

(単位：百万円)

| | 第120期上半期 (2018年4月1日から 2018年9月30日まで) | 第121期上半期 (2019年4月1日から 2019年9月30日まで) | 増減 (増減率%) | |
|------------------|--|--|-----------|-------|
| 売上高 | 58,482 | 49,160 | △9,321 | (△16) |
| 営業利益 | △2,153 | △7,752 | △5,599 | (-) |
| 経常利益 | △1,928 | △7,336 | △5,408 | (-) |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | △1,258 | △6,702 | △5,443 | (-) |

| 区分 | 亜鉛（月平均） | | 鉛（月平均） | | 銀（月平均） | | 為替レート（月平均） | |
|---------|---------|---------|--------|---------|--------|--------|------------|----------|
| | LME相場 | 国内価格 | LME相場 | 国内価格 | ロンドン相場 | 国内価格 | 米ドル | 豪ドル |
| | \$/t | ¥/t | \$/t | ¥/t | \$/toz | ¥/kg | ¥/US\$ | US\$/A\$ |
| 2018年3月 | 3,280 | 394,400 | 2,397 | 316,000 | 16.5 | 57,650 | 106.24 | 0.7768 |
| 6月 | 3,092 | 389,000 | 2,441 | 333,000 | 16.5 | 59,870 | 110.03 | 0.7494 |
| 9月 | 2,433 | 320,500 | 2,028 | 292,000 | 14.3 | 52,700 | 111.91 | 0.7197 |
| 12月 | 2,626 | 345,100 | 1,965 | 286,000 | 14.7 | 54,320 | 112.51 | 0.7187 |
| 2019年3月 | 2,851 | 365,800 | 2,055 | 294,900 | 15.3 | 56,120 | 111.24 | 0.7076 |
| 6月 | 2,602 | 332,500 | 1,892 | 267,800 | 15.0 | 53,520 | 108.12 | 0.6945 |
| 9月 | 2,320 | 299,400 | 2,071 | 284,200 | 18.2 | 64,430 | 107.45 | 0.6800 |

※LMEとは、ロンドンにある世界最大規模の非鉄金属の取引所です。

から資源事業で29億円の減益となりました。以上の結果、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益ともに前年同期比で大幅減益かつ赤字となりました。

なお、中間配当につきましては、下半期の当社グループを取り巻く経営環境の動向を見極めた

く、従来同様、実施を見送らせていただきたいと存じますので、何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご理解とご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

2019年12月

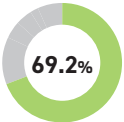

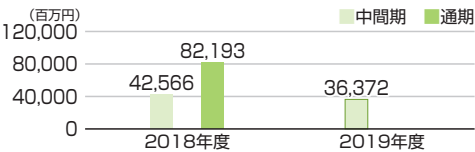
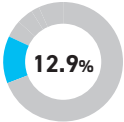

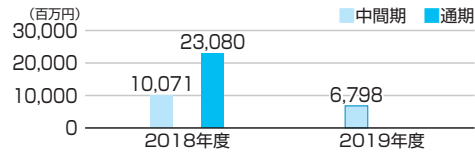
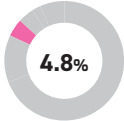

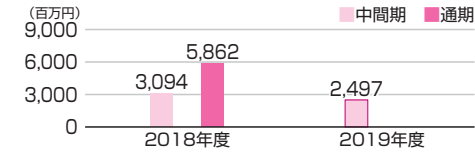
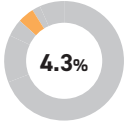

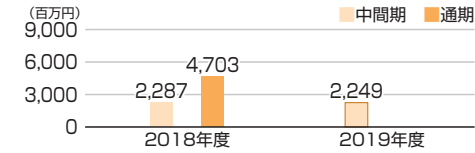
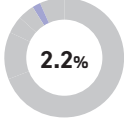

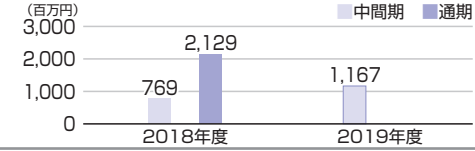
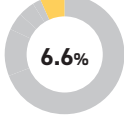

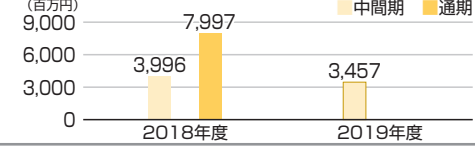
経営理念

- 1 “顧客”を満足させる良質の製品・サービスを提供する。
- 2 “株主”の期待に応える業績をあげ、企業価値の増大を図る。
- 3 “従業員”の生活を向上させ、働き甲斐のある会社にする。
- 4 “地域”の一員として認められ、地域にとって存在価値のある会社を目指す。



代表取締役社長 丸崎 公康

事業部門別の概況

| | 売上高・構成比 | | 売上高の推移 |
|-----------------------|---|---|--|
| 製錬事業部門 |  <p>69.2%</p> <p>363億72百万円</p> |  |  <p>(百万円)</p> <p>120,000</p> <p>80,000</p> <p>40,000</p> <p>0</p> <p>2018年度 2019年度</p> <p>中間期 通期</p> <p>42,566 82,193 36,372</p> |
| 資源事業部門 |  <p>12.9%</p> <p>67億98百万円</p> |  |  <p>(百万円)</p> <p>30,000</p> <p>20,000</p> <p>10,000</p> <p>0</p> <p>2018年度 2019年度</p> <p>中間期 通期</p> <p>10,071 23,080 6,798</p> |
| 電子部材事業部門 |  <p>4.8%</p> <p>24億97百万円</p> |  |  <p>(百万円)</p> <p>9,000</p> <p>6,000</p> <p>3,000</p> <p>0</p> <p>2018年度 2019年度</p> <p>中間期 通期</p> <p>3,094 5,862 2,497</p> |
| 環境・サイクル事業部門 |  <p>4.3%</p> <p>22億49百万円</p> |  |  <p>(百万円)</p> <p>9,000</p> <p>6,000</p> <p>3,000</p> <p>0</p> <p>2018年度 2019年度</p> <p>中間期 通期</p> <p>2,287 4,703 2,249</p> |
| 未・建築・プラントエンジニアリング事業部門 |  <p>2.2%</p> <p>11億67百万円</p> |  |  <p>(百万円)</p> <p>3,000</p> <p>2,000</p> <p>1,000</p> <p>0</p> <p>2018年度 2019年度</p> <p>中間期 通期</p> <p>769 2,129 1,167</p> |
| その他事業部門 |  <p>6.6%</p> <p>34億57百万円</p> |  |  <p>(百万円)</p> <p>9,000</p> <p>6,000</p> <p>3,000</p> <p>0</p> <p>2018年度 2019年度</p> <p>中間期 通期</p> <p>3,996 7,997 3,457</p> |

※各事業部門の売上高には、事業部門間売上高を含みます。

当上半期概況

《亜鉛》

減販の影響もあり、売上高は前年同期比18%の減収となりました。

《鉛》

増販とはなったものの相場の影響が大きく、売上高は前年同期比で8%の減収となりました。

《銀》

円高の影響や原料事情により、売上高は前年同期比2%の減収となりました。

以上のほか、硫酸などその他の製品を合わせた当事業部門の業績は、金属相場の下落に加えて亜鉛の減販もあり、前年同期比で減収となりました。営業利益は急激な亜鉛相場下落から多額の在庫評価損を計上したことや、非鉄スラグ製品の処理費用の計上もあり、前年同期比20億円の減益となり、55億円の営業損失となりました。

金属相場が大きく下落（1月—6月期比較）したことや、エンデバー鉱山の減産などもあり、売上高は前年同期比大幅な減収となりました。損益面でも金属相場悪化の影響が大きく、前年同期比29億円の減益となりました。

《電子部品》

車載電装向けではHV向け製品の販売が伸びたものの、客先の在庫調整や一部製品の終息による販売減をカバーするには至りませんでした。また、その他の用途では、世界的な貿易摩擦問題の影響を受け大幅な販売減となり、売上高は前年同期比19%の減収となりました。

《電解鉄》

世界のトップシェアを誇る電解鉄は、航空機墜落事故や世界的な貿易摩擦の影響から売上が落ち込み、売上高は前年同期比13%の減収となりました。

《プレーティング（金、銀、錫、ニッケル等のメッキ材）》

昨年後半からの急激な市場の落込みで受注が減少し、減販となったことから、売上高は前年同期比25%の減収となりました。

《機器部品》

粉末冶金部門は国内の自動車関連製品は順調だったものの一般産業向けが低調でした。また、タイヤ用バランスウエイト部門は海外の自動車ライン向けの減少が大きく、売上高は前年同期比23%の減収となりました。

以上の結果、当事業部門の業績は、前年同期比で減収減益となりました。

主力製品の酸化亜鉛は増販となったものの、亜鉛の国内建値が前年同期比で下落したこともあり若干の減収となりました。使用済みニカド電池の処理や硫酸リサイクルなどその他のリサイクル事業についても減収となり、当事業部門の業績は、前年同期比で減収減益となりました。

プラントエンジニアリング及び建築事業において大型案件が検収されたこともあり、前年同期比52%の増収、営業利益も増益となりました。しかしながらプラントエンジニアリング事業で不採算の案件が生じたことなどから、前年同期に引き続き営業損失を計上するに至りました。

《防音建材（商品名：ソフトカーム）事業》

医療向けX線遮蔽用鉛板やプラントの設備防音用鉛シートの需要はやや持ち直したものの、制振遮音材の販売が落ち込み、売上高は前年同期比4%の減収となりました。

《運輸事業》

運輸部門は、運送荷物やリサイクル原料等の扱い量の減少などにより、売上高は前年同期比11%の減収となりました。

以上のほか、環境分析部門を合わせた当事業部門の業績は、前年同期比で減収となりましたが、損益面においては、リサイクル鉛原料の購入価格の下落等もあり、前年同期比増益となりました。

連結決算の概況

四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| 科 目 | 前 期 (2018年9月30日現在) | 当 期 (2019年9月30日現在) | 科 目 | 前 期 (2018年9月30日現在) | 当 期 (2019年9月30日現在) |
|---------------|-----------------------|-----------------------|--------------------|-----------------------|-----------------------|
| 〔資産の部〕 | | | 〔負債の部〕 | | |
| 流動資産 | 67,681 | 71,825 | 流動負債 | 39,614 | 61,756 |
| 固定資産 | 59,892 | 60,988 | 固定負債 | 30,516 | 24,763 |
| 有形固定資産 | 40,847 | 38,921 | 負債合計 | 70,130 | 86,519 |
| 無形固定資産 | 12,370 | 12,163 | 〔純資産の部〕 | | |
| 投資その他の資産 | 6,673 | 9,903 | 株主資本 | 46,732 | 37,787 |
| | | | 資本金 | 14,630 | 14,630 |
| | | | 資本剰余金 | 9,876 | 9,876 |
| | | | 利益剰余金 | 22,255 | 13,310 |
| | | | 自己株式 | △30 | △30 |
| | | | その他の包括利益累計額 | 10,710 | 8,507 |
| | | | その他有価証券評価差額金 | 811 | 432 |
| | | | 繰延ヘッジ損益 | △39 | △701 |
| | | | 土地再評価差額金 | 8,997 | 8,997 |
| | | | 為替換算調整勘定 | 776 | △326 |
| | | | 退職給付に係る調整累計額 | 164 | 105 |
| | | | 純資産合計 | 57,443 | 46,294 |
| 資産合計 | 127,574 | 132,814 | 負債・純資産合計 | 127,574 | 132,814 |

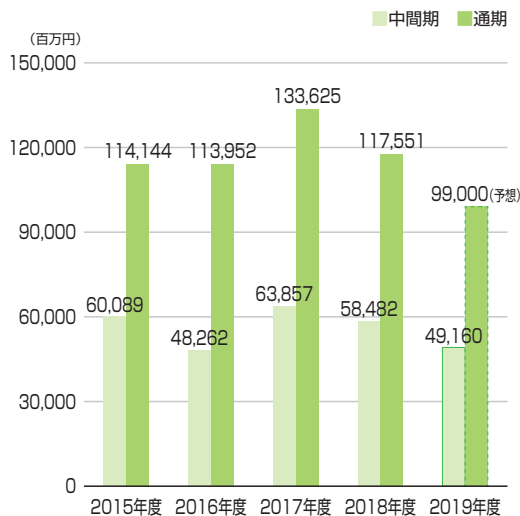
四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

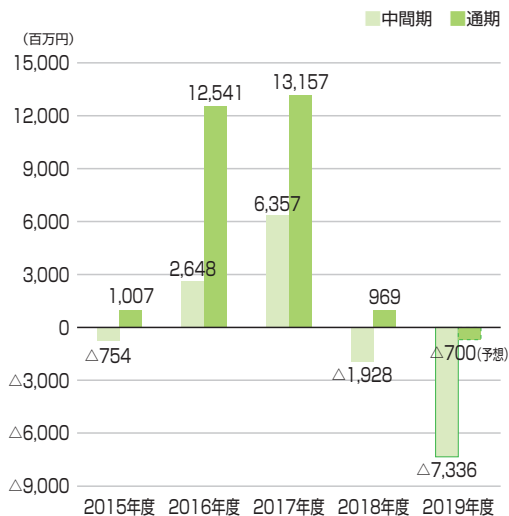
| 科 目 | 前 期 (2018年4月1日から2018年9月30日まで) | 当 期 (2019年4月1日から2019年9月30日まで) |
|-----------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| 売上高 | 58,482 | 49,160 |
| 売上原価 | 56,193 | 52,756 |
| 売上総利益又は売上総損失 (△) | 2,288 | △3,595 |
| 販売費及び一般管理費 | 4,442 | 4,157 |
| 営業損失 (△) | △2,153 | △7,752 |
| 営業外収益 | 692 | 815 |
| 営業外費用 | 466 | 398 |
| 経常損失 (△) | △1,928 | △7,336 |
| 特別利益 | 4 | 38 |
| 特別損失 | 176 | 831 |
| 税金等調整前四半期純損失 (△) | △2,100 | △8,128 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 67 | 15 |
| 法人税等調整額 | △909 | △1,441 |
| 四半期純損失 (△) | △1,258 | △6,702 |
| 親会社株主に帰属する四半期純損失 (△) | △1,258 | △6,702 |

●記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

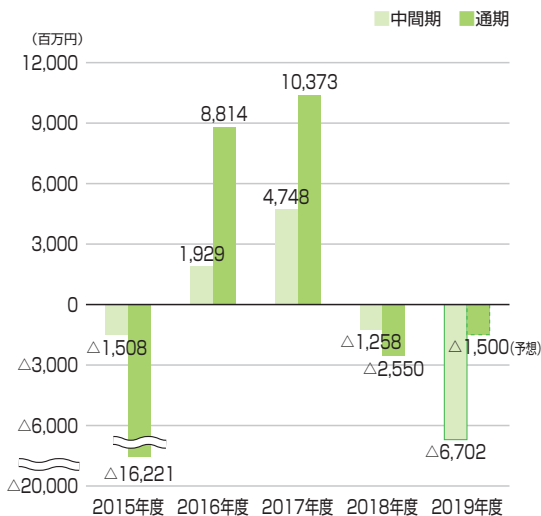
▶ 売上高の推移



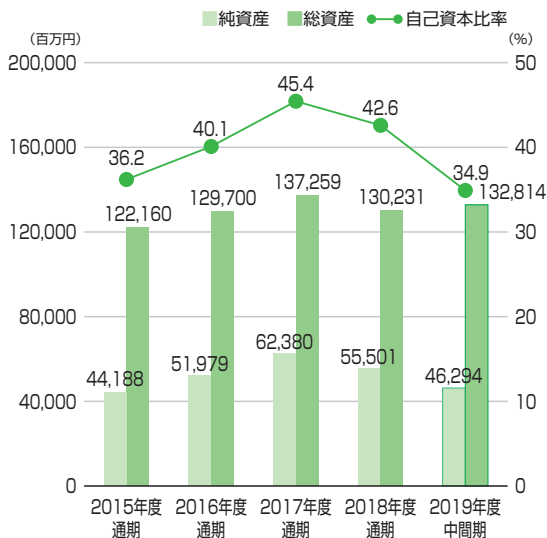
▶ 経常利益の推移



▶ 親会社株主に帰属する四半期純利益の推移



▶ 純資産、総資産、自己資本比率の推移



会社の概要

- **本 社** 東京都千代田区丸の内一丁目8番2号
電話 (03) 6212-1711 (代表)
- **設 立** 1937年3月5日
- **資 本 金** 14,630,708,899円
(2019年9月30日現在)
- **従業員数** 単体：708名、連結：1,281名
(2019年9月30日現在)
- **事業内容** 製錬事業、資源事業、電子部材事業、
環境・リサイクル事業、防音建材事業

■ 取締役 (2019年9月30日現在)

- 代表取締役社長 丸崎 公康
- 取締役兼副社長執行役員 今井 力 技術・開発本部長
- 取締役兼専務執行役員 山岸 正明 管理本部長兼財務部長
兼システム統括部長
- 取締役 武藤 雅俊 常勤監査等委員
(社外取締役)
- 取締役 多田 稔 監査等委員
(社外取締役)
- 取締役 乙葉 敏夫 監査等委員

■ 執行役員 (2019年9月30日現在)

- 常務執行役員 田島 義巳 亜鉛・鉛事業本部長
兼機器部品事業部長
兼環境・リサイクル事業部担当
- 常務執行役員 伊藤 正人 電子部品事業本部長
兼電子部品事業部長
兼藤岡事業所長
- 執行役員 大久保 浩 総務本部長
兼総務部長
兼CSR推進室長
- 執行役員 飯塚 茂 契島製錬所長
- 執行役員 中川 英樹 資源事業部長
兼資材統括部長
兼ソフトカーム事業部担当
- 執行役員 森田 英治 安中製錬所長

ホームページのご案内

決算短信等、最新の会社情報を当社ホームページの「IR情報」に掲載しております。今後も、株主・投資家の皆様にお役立ていただけるよう工夫を加え、掲載情報のより一層の充実を図ってまいります。



▲トップページ

<http://www.toho-zinc.co.jp/>



▲IRサイト

<http://www.toho-zinc.co.jp/ir/>



- A** 本社
- B** 大阪支店
- C** 名古屋支店
- D** 安中製錬所
- E** 契島製錬所
- F** 小名浜製錬所
- G** 藤岡事業所

契島製錬所



小名浜製錬所



安中製錬所



藤岡事業所



- A** 大連天馬電器有限公司（中国：大連）
- B** 天津東邦鉛資源再生有限公司（中国：天津）
- C** 諸城華日粉末冶金有限公司（中国：諸城）
- D** 東邦亜鉛(上海)貿易有限公司（中国：上海）
- E** 東邦亜鉛香港有限公司（中国：香港）

東邦亜鉛香港有限公司



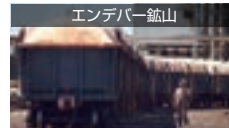
諸城華日粉末冶金有限公司



CBH Resources Limited
Level 10, 99 Mount Street,
North Sydney NSW 2060 Australia

- A** 本社
- B** ラスブ鉱山
- C** エンデバー鉱山
- D** ニューキャッスル港

エンデバー鉱山



ラスブ鉱山



ニューキャッスル港



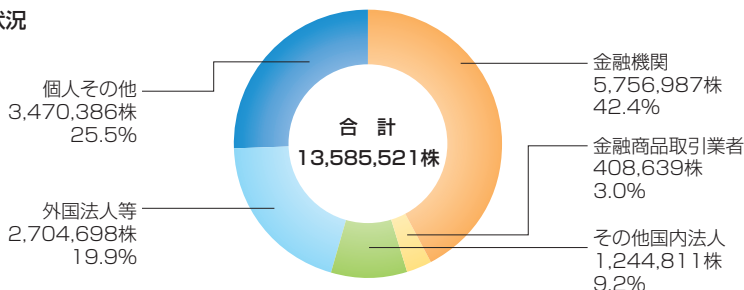
株式の状況 (2019年9月30日現在)

- 発行可能株式総数……………26,400,000株
- 発行済株式の総数……………13,585,521株
- 株 主 数……………10,050名
- 大 株 主

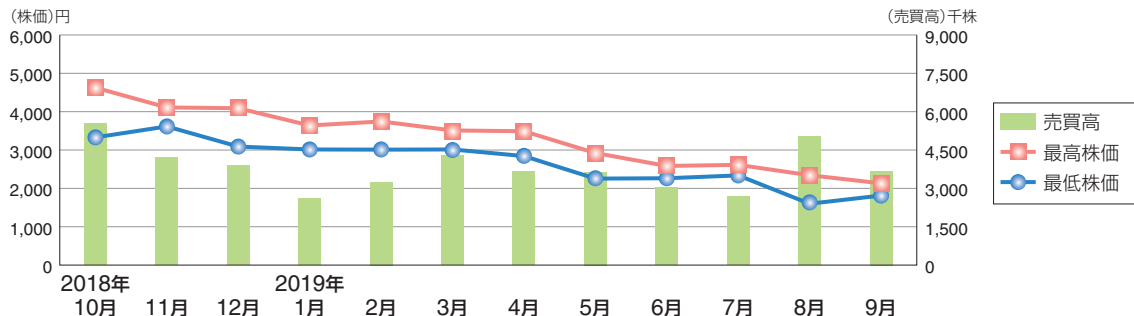
| 株主名 | 持株数 (株) | 持株比率 (%) |
|--|-----------|----------|
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口) | 2,544,900 | 18.74 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口) | 758,500 | 5.59 |
| 三菱商事RtMジャパン株式会社 | 400,075 | 2.95 |
| 資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口) | 275,000 | 2.03 |
| 三菱UFJ信託銀行株式会社 | 267,500 | 1.97 |
| 野村信託銀行株式会社 (投信口) | 231,500 | 1.70 |
| BNYMSANV RE BNYMLBGC RE BNY GCM CLIENT ACCOUNTS MAPNB FE | 227,000 | 1.67 |
| JP MORGAN CHASE BANK 385151 | 226,424 | 1.67 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5) | 208,500 | 1.54 |
| 株式会社扇谷 | 200,375 | 1.48 |

(注) 持株比率は自己株式を控除して算出しております。

● 株式所有者別分布状況



● 株価及び売買高の推移 (東京証券取引所)



株式についてのご案内

- **事業年度** 4月1日～翌年3月31日
- **基準日** 3月31日、その他必要により取締役会で決議した日
- **配当金支払
株主確定日** 3月31日及び中間配当を実施するときは9月30日
- **定時株主総会** 毎年6月
- **公告の方法** 電子公告 <http://www.toho-zinc.co.jp/>
ただし、やむを得ない事由により電子公告による
公告をすることができない場合は、日本経済新聞
に掲載いたします。
- **単元株式数** 100株
- **株主名簿管理人** 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
- (お問い合わせ先) 東京都府中市日鋼町1番1号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
フリーダイヤル0120-232-711
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

東邦亜鉛株式会社

〒100-8207

東京都千代田区丸の内一丁目 8 番 2 号 鉄鋼ビルディング

Tel : 03 - 6212 - 1711 Fax : 03 - 3284 - 1521

<http://www.toho-zinc.co.jp/>

